

2025

4-5月

はしかけニューズレター

2025 年度 第1号 通巻 182 号

2025 年(令和 7 年)5 月 8 日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 金尾、西川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊
(9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ
(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ
(17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会
(23) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(5月)

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 387人

グループ数 23グループ

(2025年 3月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

新年度を迎えましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。新緑の季節となり、琵琶湖博物館内の木々も美しく、毎日、さわやかな気持ちとなります。今年度ははしかけ担当は、金尾滋史学芸員です。どうぞよろしくお願いいたします。以下は事務局からのお知らせです。

■はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末に更新手続きをお忘れで、2025 年度も継続してはしかけ活動をされる方は、更新手続きが必要です。更新受付票の返送とボランティア活動保険への加入をお願い致します。ボランティア活動保険の加入については、4 月以降に加入される場合は、博物館での加入手続き代行は行っておりませんので、個人での加入手続きをお願いします。お近く(市・町・県)の社会福祉協議会にて、「ボランティア保険」の加入手続きを行ってください。その際、「主な活動内容」欄には「琵琶湖博物館はしかけ 観察会・課外活動」、「主な活動場所」欄には「琵琶湖博物館」とご記入ください(はしかけ以外の活動団体ですすでにボランティア保険に加入されている方は新たな加入手続きは不要です)。また、4 月以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1 か月半程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

■2025 年度 第 2 回はしかけ登録講座

2025 年度第 2 回はしかけ登録講座を以下日程で、オンラインおよび対面にて開催予定です。お近くに、はしかけにご興味をお持ちの方がいらっしゃれば、お知らせ頂けると幸いです。

(オンライン)日時:2025 年 9 月 7 日(日)～2025 年 9 月 21 日(日)のうち任意の時間 (1 時間半程度)

(対面)日時:2025 年 10 月 12 日(日) 13 時 30 分～16 時 00 分 (受付時間 13 時 00 分～)場所:琵琶湖博物館 セミナー室

※詳細は、琵琶湖博物館 HP をご覧くださいませ。

■ギャラリー展「滋賀のコケ植物とその研究史～コケに魅入られた人々の系譜～」について

滋賀では、橋本忠太郎をはじめとする多くの研究者がコケに魅了されて研究に取り組んできました。熱心にコケと向き合ってきた人々の足跡を辿りながら、滋賀のコケ植物相の面白さや豊かさ、着目すべき種類について紹介します。また、合わせて琵琶湖博物館のコケ植物コレクションの公開や、現在滋賀でコケを調べる研究者による目録作りなども紹介します。

期間は、2025 年 4 月 26 日(土) ～ 2025 年 6 月 8 日(日)です。ぜひ、ご覧下さい。

(副担当: 西川 真里奈)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32 名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■2月15日(土) 全国ブラックバス防除市民ネットワーク(ノーバスネット)総会(東京)

参加者: 2名

総会に参加し、全国で生物の保全に取り組む団体の皆さんと意見交換や交流を行いました。

■2月16日(日) アクア・トトぎふ見学会 参加者: 30名

2月の活動は久々となる水族館見学会。岐阜県各務原市の「アクア・トトぎふ」を訪問し、特別にバックヤードを見せて頂きました。館長自ら、水質や病気の検査室、展示用の生き物の繁殖・成長用の多数の水槽群、屋外の環境を経験させるための水槽群などについて説明して下さいました。検査室にはヒトの健康診断でよくお世話になる(個人的感想です)超音波診断装置の小型のものが置いてありました。魚病の診断に使用することがあるそうです。

木曽川に生息する天然記念物イタセンパラについては館で系統保存を行っており、野生復帰に使われる可能性を視野に入れ、夏も冬も屋外水槽で飼育しているとのこと。対して展示用の他の魚は室内で飼育し、非繁殖期でも人工授精等で殖やして、来館者により状態の魚をいつでも見てもらえるよう調整しているとのことでした。ひと言にバックヤードでの飼育と言っても、色々あるのですね。案内の最後には会員からのいくつかの質問にも答えていただきました。

その後は自由見学となり、各水槽の前で撮影や観察、見分け方の教え合いなど、思い思いに館内をめぐりました。琵琶湖周辺でもみられる魚の水槽では特に足が止まりがちで、なかなか進まなかったように思います。世界最大のナマズであるメコンオオナマズ、世界最大の淡水魚ピラルクーの前でも、多くの方が止まって見入っていました。私が館を出たのは16時15分頃で、たぶん最後のグループでした。遠路、また長時間の見学会、皆さんお疲れ様でした。(文責: 中尾博行)

【今後の予定】

3月30日(日)に総会を行い、次年度の予定を決定します。詳細は追ってご連絡します。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 歴史系担当学芸員

【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ担当職員: 桒永 一宏

【活動報告】

■ 2025年 1月 26日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名

オープンラボでスケッチおよび博物館敷地で吟行をしました。

■ 2025年 2月 23日(日) 琵琶湖博物館 参加者 5名

博物館敷地で吟行。オープンラボでスケッチおよび句会をしました。

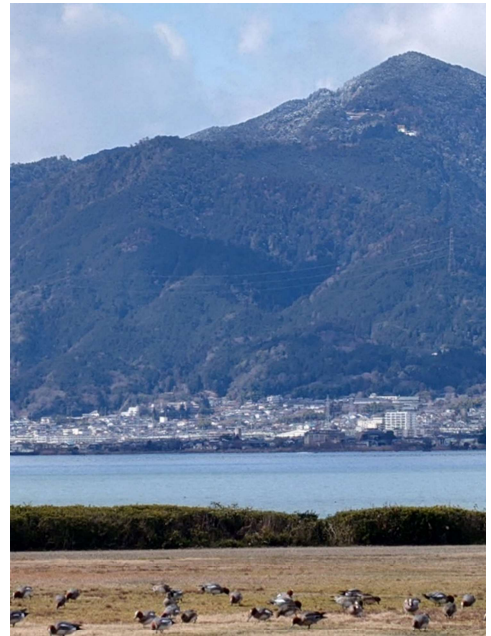


【活動予定】

- 2025年 3月 23日(日) 琵琶湖博物館
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。
活動時間 10時30分～(16時)
- 2025年 4月 20日(日) 堅田(大津市)
堅田浜や浮御堂周辺で吟行およびスケッチをします。
活動時間 10時30分～(16時)
集合時間と場所 10時30分 浮御堂前
※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

○博物館 de 俳句

2月23日に一心に草を啄む緋鳥鴨の群れを見ました。
これからの長い旅に備えてたくさん食べていたのでしょうか？
足もとにはオオイヌノフグリが咲きはじめていましたが、鴨の糞らしきものがいたるところにありました。
この日は日陰に雪が残っていましたが見る間に溶けてゆきました。
落の臺は見つけることが出来ませんでしたがそれは来月のお楽しみということで。



※写真は斑雪と草を啄む鴨です。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:歴史系担当学芸員

【活動報告】

- 1月29日(水) 参加者:5名
花緑公園からもらってきたルーヴィス(糸紡ぎ機)を修理したので、使ってみました。
ちゃんと糸ができて感動！ 長年使われてなかったためか、回るたびにキーキー
いうので油をさす必要があるようです。
- 2月8日(土) 参加者:1名
前回と同じルーヴィスで糸紡ぎ。羊毛で糸を作ってみました。
- 2月26日(水) 参加者:3名
前回と同じルーヴィスで糸紡ぎ。回る部分に油をさしたので、静かに回るようになりました。
また、家にあった羊毛をもってこられたので、カード機(梳毛機)で梳いてみました。
こちらも問題なく使えるようです。
- 3月8日(土) 参加者:5名
今回もルーヴィスで糸紡ぎ。また、家にあった羊毛をもってこられたので、カード機
(梳毛機)で梳いてみました。こちらも問題なく使えるようです。



2月8日ルーヴィスで糸紡ぎ



3月8日カード機で羊毛をすく

【活動予定】

■織姫の会

3月26日(水)、4月9日(水)、26日(土)、5月14日(水)、31日(土)

(文責:辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2025年1月の活動

○勉強会 岩石持ち寄り情報交換会

参加者: 8名

場所: 実習室 1

日時: 1月28日(火) 13:30 - 15:30

・岩石の種類や数量にこだわらず隊員の皆様が興味のある岩石を持ち寄り、現物を提示しながら説明と討論しました。採取地は四国の足摺岬から北海道の襟裳と広範囲です。博物館に最も近い露頭は野洲です。採取の目的は様々です。要すれば、未知へのロマンが皆さんを駆り立てたものと思いました。

来年も同様の企画は継続する予定です。新発見が生まれるのか、楽しみです。

○大津の岩石調査隊長の交代

斉藤隊長から、来期は梅澤正夫が隊長なるとの報告有。

反対なく、了承された。

■2024年通年の活動 今年も続行

○探索研究の報告レポート

レポート作成者: 1

白亜紀に活動した琵琶湖カルデラ火山(以下、白亜紀琵琶湖カルデラ火山)の成因の仮説を作ることを長期目標にして探索検討を始めました。そのレポートを皆さんに開示始めました。最近のものは、「野洲や近江八幡等に見られる花崗岩体と火砕岩が接近して存在することの不思議」です。仮説の大元は鎌田京都大名名誉教授の槍穂高の成因の中で、「大きなカルデラ噴火では火砕流は周囲に流れ出すだけではなく、カルデラの底にも逆流する」の転用です。鎌田浩毅 著 岩波書店(2011)「火山と地震の国に暮らす」です。

■今後の活動予定

3月15日(土) 13:30~15:30 実習室 1

○大津の岩石調査隊総会(多分、初めて)

場所: 実習室 1



(6) 温故写真

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15 名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

【活動報告】

■2月24日(月)13:00~15:00 参加者 8 名 担当職員 2 名

・2月の活動は天皇誕生日の振替休日に実施され、金尾学芸員による写真撮影のテクニック、写真のレタッチ方法について、実際に写真を見ながらの講義が行われました。被写体ごとの器材の使い分けや素敵な写真を撮るコツなど、具体的な話を聞くことができ、参加者から活発な質問がなされました。あいにくの天候であったため、今回は屋外での撮影会を行いませんでしたが、今回学んだことを活かして、来年度からは烏丸半島内の四季の変化が分かるような写真を撮影する活動を行っていく予定です。

■3月23日(日) 参加者 7 名 担当職員 2 名

・3月は今年度の活動の振り返りと総会が開かれました。総会では来年度の体制と活動内容について話し合わせ、温故写真が結成されて20年の節目の年となることから、これまでの活動を振り返るとともに、未来に遺せる写真の整理、撮影を主題としおた活動を行うことが確認されました。

・特に烏丸半島の四季、烏丸半島八景といったコンセプトで写真の整理、撮影を行い、その成果を何らかのかたちで展示したいと考えています。

・また今年度の活動で整理・撮影した写真のデータを琵琶湖博物館に提供し、将来的にはデータベースなどで公開してもらいたいという意向も示されました。

【2025 年度の主な日程と計画】

・4 月下旬

内容:これまでに撮影した温故写新の写真の確認

場所:琵琶湖博物館 研究交流室

・5 月上旬

内容:草津のサンヤレ踊りなどを中心とする祭りの写真撮影

場所:各々が好きな祭りに赴いて活動する。

・6 月

内容:烏丸半島撮影会

場所:烏丸半島

・7 月

内容:企画展オープニングセレモニーの撮影会

場所:琵琶湖博物館企画展示室

・8 月

内容:撮影写真検討会、琵琶博フェスに関する話し合い

場所:研究交流室

・9 月中旬

内容:生き物写真撮影講座

場所:現在調整中

※活動に参加される方は、事前にグループ担当学芸員までご連絡ください。

※温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行っています。ご希望の方は温故写新担当学芸員(金尾・加藤)までご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

・4月以降の活動再開に向けて、準備中です。

【活動予定】

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、滋賀県内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■古琵琶湖発掘調査隊 総会

日時:3 月 1 日(土) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室 1 参加人数:6 名

活動内容:

2024 年度の総会を実施しました。最初に、新会長から挨拶があり、その後、本年度の活動について振り返りを行い、どのような活動をしてきたかを皆で確認しました。次年度の活動計画については、メンバーから、屋外活動の実施や勉強会についてのアイデアや意見が多く提案され、活発に話し合うことができました。総会終了後は、A 展示室に移動し、地域の人びとによる展示「鮮新—更新統大阪層群産の非海生生物化石」を見学し、古琵琶湖層群と比較することができる情報を得ました。

【活動予定】

■未定



(9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11 名】

グループ担当職員:奥田 岬

■1月19日(日) 冬の里山体験教室 本番 一般参加者6名、会員4名

一週間前の下見の際には、活動場所へ向かう道には雪がうっすら積もっていましたが、本番は雪も解け、温かい日となりました。火おこしと花炭づくりをするため、参加者で冬の里山を散策しつつ、枝やドングリなどの材料を集めました。そして焚き火をおこし、缶に集めた材料ともみ殻を入れ、花炭を作りました。

参加者のみなさんは、火おこしの際に、スギの落ち葉を最初に入れるとよく燃えることや、火の注意深い管理の重要性などを学びました。花炭の材料にセミの抜け殻を入れた方もいましたが、その形のままきれいに出来上がっており、参加者からは驚きの声が上がっていました。

また、小丸太を使って木のベンチづくりを行いました。ツルで丸太をくろうとしましたが、よく切れてしまったため慎重に作業を行いました。みなさんさっそく完成したベンチに座ってくつろいでいました。



■3月1日(土) 丁稚羊羹づくりと総会 会員7名

この日はシイタケの植菌を予定していましたが、雪の影響で原木を用意することができなかったため、急遽丁稚羊羹づくりに変更しました。竹皮に100グラムずつ成形した餡を包んで、蒸し器で一時間。会員の方が用意してくださったつぶ餡と白餡を使って作りました。

その後年に一度の総会を行いました。今年度の各活動を参加者で振り返り、来年度の活動計画を話し合いました。毎年の定例イベントだけでなく、来年度新たにやってみようというイベントのアイデアも出て活発な話し合いが行われました。今年度の活動はこれでおしまいです。



【今後の活動予定】

4月12日(土) 冬の里山体験教室 下見

4月20日(日) 春の里山体験教室 本番

3月に入り、やっとウメの花が満開になった。昨年とは違い、ウメの花の周りをアブやハエのなかま、セイヨウミツバチが飛び回っている。今年はちゃんと実が成りそうだ。1月初めまでの暖かさがウソのように、2月からは積雪、寒風などに見舞われ、鈴鹿山脈も比良山系もまだまだ白い状態だ。

米原方面のセツブンソウは、雪に阻まれて見に行けていない。藤原岳の麓(三重県いなべ市)にある「ふるさとの森」という観察用の森では、2月27日にフクジュソウとセツブンソウが同時に満開になっていた。



【活動報告】

2月 例年お休み

3月 2日(日)「持ち寄り観察」博物館 実習室1 10:00~12:00 すぎ

参加者3名

この日は、寒く冷たい雨。気温5℃。

初めに、いわゆる「ほうきぐさ」を見た。メンバーが持参したほうきぐさは枯れていて、ちょうど実・種子が残っているのではないかと思い、拡大して見たが分からない。実が付いていそうな部分には、細い葉のようなものがクルンとねじれて付いていた。実が弾けて飛んだ証拠なのではないかと思い、図鑑を開くことにした。

しかし、図鑑やスマホで調べたが、見つからない。蓐製品、ちがう…。ヒロハほうきぐさなら分かるが…。

毎年勝手に庭に生えてくる？ いや、宿根で多年草ではないか？ 友達の家では毎年種を蒔いて育てほうきを作っている…。コキアと同じなのか？ いったいどんな植物なのか。

帰化植物の図鑑でやっと発見。種名は、ホウキギ。アカザ科、学名は *Kochia scoparia* (「日本帰化植物写真図鑑」全国農村教育協会)、現在 APG 分類ではヒユ科、学名は *Bassia scoparia* ホウキグサ、トングリ、イソホウキ(「日本維管束植物目録」北隆館)。よく言われる「コキア」の名は、むかしの学名をそのまま読んでいると判明。他にも「とんぶり」として種子を食用に、とあるが、それならば種子は肉眼で見える1~2mmの大きさだということだ。

今年は、花や実が付いたときにじっくり見てみたい。

次に、別メンバーが育てているシャジクモを、今までの話を聞きながら観察。

水草のなかまように見えるが、藻類だと聞き、驚いた。冬季は、卵胞子をつくって休眠状態、「胞子」と付いているのでシダ類や海草のように増えるのかと思ったが、それも違うようで、とにかく実物を見ることにした。

黒い点に見えているこの卵胞子を顕微鏡で観察したところ、長丸で膨らんでいる。扁平ではない。表面には8本?横縞があり、縞の先端は三角状にとがっている。何のための出っ張りなのか、春に発芽するのはどの部分からなのか、発芽後どのくらいでシャジクモらしい姿になるのかなど、これからの観察結果を聞くのが待ち遠しい。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 8月、2月は、例年お休みしています
- 4月 6日(日)「おでかけ観察」栗東自然観察の森 10:00~12:00 すぎ
- 5月 4日(日)は未定
- 6月 1日(日)「おでかけ観察」みなくち子どもの森 10:00~12:00 すぎ
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12 名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

オンラインで珪藻の「詰め込み教育」を行いました。これは珪藻の一定倍率の光学顕微鏡写真を、学術誌などの投稿規定で指定された限られたスペースの中に「なるべく学名の ABC 順に、なるべく隙間なく、なるべく美しく」詰め込む技術を学んでもらうものであり、決して膨大な珪藻の知識を無理矢理教え込むものではありません。1 月 4 日に出題、2 月末を〆切としてゆったりと答案を募集したものの、集まった答案は2件だけでした。桜の時期に合わせて行われるたんさいぼうの会第 79 回総会(日程調整中)で、最優秀賞を発表するとともに、講評と改善のための講座を行います。

会員の西坂一成さんと影の会長は、2 月 8 日(土)に観察会「宍粟市環境講座 顕微鏡で藻の世界をのぞこう」の講師を務めるべく、朝から(影の会長は前日から)会場の兵庫県立国見の森公園に行き、準備を進めていました。ところが折からの大雪で宍粟市の北部が大雪になり、大雪警報が出たため、朝 9 時の時点で中止が決定されました。右の写真は影の会長が、悔し紛れに公園の横を流れる小川で採集した珪藻の写真を、琵琶湖博物館の顕微鏡で撮影したものです。これにクリーニングされた殻の写真を追加し、正確に同定して、国見の森公園にポスターとして提供しようと考えています。

会員の富小由紀さんらが投稿している古琵琶湖層群 蒲生層の化石珪藻の論文は、現在、最後の修正中です。出版されれば、たんさいぼうの会会員名義の主著者による 21 本目の論文になります。他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。



【活動予定】

たんさいぼうの会第 79 回総会を、花見の都合により、桜の開花時期に合わせて開催します。今のところ 4 月 6 日か 13 日になりそうです。ご参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでご連絡下さい。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



(12) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5 名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

三寒四温とはよく言ったもので、急に雪が降ったり春の陽気になったりと落ち着かない天候が続きます。地上の我々は右往左往しますが、地中にあるエビたちの卵には大した影響はないのでしょうね。彼らの春は田んぼの灌水とともに始まるのでしょうか。今年はどんな気候になるのか、エビたちはどんなふうに関(初夏になるのか)を満喫するのか、気になります。今年も例年通り 5 月から 6 月にかけて、エビを求めて県内の田んぼを巡り歩くことになります。

【活動報告】

・春の総会

2025 年 3 月 22 日午後に、琵琶湖博物館実習室1で総会を開催しました。代表より 2024 年度の活動のまとめが報告され、2025 年度の活動計画案が示されました。特に付け加えるような調査希望はなく、提示された案に従って進めることになりました。2025

年度は、5月11日に調査準備会を行い、5月25日から6月8日にかけて全体調査を行います。場所は貴生川駅周辺、日野駅周辺、近江八幡市周辺、木ノ本駅周辺です。なお、調査時に、エビ類の写真撮影にも努めることにします。

【活動予定】

・5月11日の準備会前に、大津市唐崎学区でヒメカイエビの調査を行い、博物館で卵の観察等を行う予定です。詳細は、日が近づいたらメールでお知らせします。

(石井 千津・山川 栄樹)



(13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:大久保 実香

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆2月の活動 2/19(水) 4組(幼児6名、大人4名)

早朝には雪が降り、工房はうっすらと雪景色。だけど、少し春の兆しが見えます。たんぽぽが咲いていたり、フキが出ていたり、冷たい風の間に春を感じます。

田んぼの横の畔にワラを敷くと、寝るにはちょうど良いベッドになりました。寝転んでみると、風も当たらず、太陽があたって、お空が見えて気持ちいい！順番で畔のベッドに寝転んで遊びました。

と、春を感じていたら、急に冷たい風が吹いてきました。そして、雪も舞い始め、なんと吹雪です！こんな中でも子どもたちは元気。「ホワイトビーチへ行こう」となりました。琵琶湖から直接真横に吹き付ける風、雪。ものすごい寒さを子どもも大人も感じて、砂の上を走りました。木々に囲まれた工房の暖かさを知る機会でした。

◆3月の活動 3/19(水) 6組(幼児9名、大人9名)

朝は雪が降り、徐々にみぞれになり、ちこあそが始まるころは大粒の雨、お外へ出かけるか思案していましたら、バンダナおじさんが昭和のおもちゃを出してくれました。コマ、メンコ、だるまおとし。お母さん、お父さんも経験のないおもちゃ。バンダナおじさんが、器用にコマを手のひらの上で回したり、メンコをパチンツと地面に打ち付けたり、びっくりです。竹馬も作ってくださりました。なんと小学校まで竹馬で登校したことがあるそうです。

ワラを使って手ぼうきを作っていると、雨が止みましたので、お外へお出かけ。春じゃがいもを植えたり、冬眠中の虫を探したり、ホワイトビーチで走ったり、今日も元気に遊びました。



ワラのベッド 2月



ホワイトビーチは吹雪 2月



竹馬上手だ 3月



ツチグリから孢子飛んだ 3月

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
4月	4月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ4月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。
5月	5月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ5月	毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

【活動報告日の活動会員数(のべ)12名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 2025 年 2 月 16 日(日) 参加者:12 名、学芸員:2 名

博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。今回博物館前ではカプトミジンコが発生していました。以前は博物館前では冬にカプトミジンコはあまり採れなかったのですが去年から冬にカプトミジンコが多く見られるようになりました。午後には電子顕微鏡を使用している所を見学しました。会員に仕事で電子顕微鏡を使っている方がいるのでいろいろ詳しい話を伺う事が出来ました。



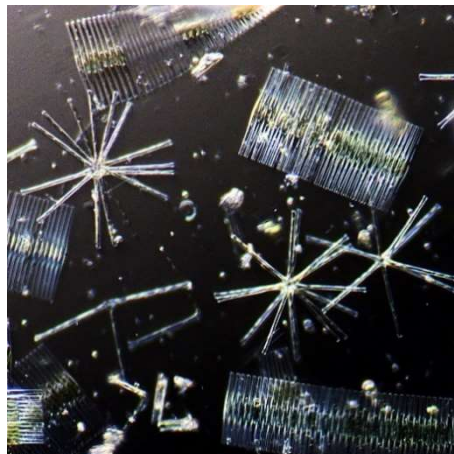
2月16日の活動の様子

[illegible]

2月16日の活動で見つかったプランクトン



カブトミジンコ



オビケイソウとホシガタケイソウ

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



(15) **びわたん**

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当職員: 渡邊 俊洋、桑原 康一

【活動報告】

2月8日 水鳥を観察しよう

参加数：一般参加13名（こども4名）、びわたん 5名、職員2名

恒例の「冬の水鳥を観察する」は不安な天候の中で始まりました。最初に亀田博士の話とクイズです。「びわ湖ですぐす水鳥は何羽くらい？」という質問「1万羽、5万羽」など控えめな答えが出ましたが正解は「約10万羽」ということで皆おどろいていました。次は観察に不可欠な双眼鏡の使用方を教わり、いよいよ観察ポイントに向かいました。しかし、残念ながら樹幹トレイル先端のテラスは悪天候で閉鎖中。急遽、2階の回廊のびわこ側の屋内からガラス越しに観察することになりました。水鳥までの距離が遠くなったのと、雪交じりの天候のせいか水鳥の数も少なく、今回は満足な観察ができませんでしたが、参加者は喜んでいました。



3月8日 ミニ水族館をつくろう

参加数：一般参加20名(こども 11 名)、びわたん 13 名、職員2名

今回は金尾学芸員から琵琶湖水族展示室、中でも「よみがえれ！日本の淡水魚」のコーナーを中心に水槽の展示構造にどのような工夫がされているか、ということをお話して頂きました。

見学の後は実習室で作り方のスライドを見ながらミニ水族館の制作に挑戦です。いつもの工作に比べ部品数と工程が多いため時間不足が心配でしたが事前に作り方説明書を配布していたこと、金尾学芸員の説明で水槽の中での魚の様子(例:泳ぐ様子、水底で過ごす姿、隠れる様子など)をよく理解していることが共通して見られ、それらを反映した作品を見事に完成することができました。

当日は土曜日で来館者がとても多く、水族展示室全体に見学場所を広げる事は難しいと判断し「淡水魚コーナー」に的を絞ったことは正解でした。それでも観察場所が通路も兼ねている場所だったので、イベント参加者と一般観覧者との衝突や迷子の発生の防止など、スタッフはとても緊張の中で引率でしたが無事にこなすことができました。



(16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11 名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

■2月1日(土) 参加者:3名

イノシシの頭の除肉、イタチの解剖を行いました。

■2月16日(日) 参加者:5名

イノシシの頭の除肉、シマリスの解剖、イタチの解剖、タヌキの解剖を行いました。



▲豚足のスケッチです。

■3月15日(日) 参加者: 3名

タヌキの解剖、豚足の除肉、カミツキガメの骨のクリーニングを行いました。

この日は食材として販売されている豚足から標本を制作する事に取り組んでみました。

豚足から骨格標本を制作するのは、初めての標本作りとしては取り組みやすいと思いますので、おすすめです。

まず材料となる豚足が食材として販売されているので、手に入れやすいですし、食材として扱われているものなので、初めての方でも制作に抵抗感が少なくチャレンジ出来るのではないかと思います。

出来上がった標本もある程度のサイズがあり、手先(足先)の骨の構造が感じられて骨格標本らしさがあるので、初めての挑戦にはちょうど良いかもしれません。

【活動予定】

4、5月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(17) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 30名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■1月19日(日) 午前 参加者: 10名

活動内容:廃油石鹸作り(琵琶湖博物館 実習室2)

今年も廃油石鹸作りを行いました。今回はメンバーが牛すじを炊いた時に廃棄される牛脂を沢山持ってきてくれたので、それをメインにした石鹸を作りました。初めて参加するメンバーもいるので、苛性ソーダの扱いかた、特に注意することをしっかりと確認しました。石鹸に入れるハーブは、ラベンダーやローズマリー、みかんの皮などを使用しました。またコーヒークずや酒粕を入れて作っているメンバーもいました。

廃油石鹸は使用していくにつれ、柔らかくなって使いにくくなるのが困っていましたが、牛脂をメインにした石鹸は、とても硬く、使用していても柔らかくならないのが特徴です。

今年から石鹸生地の攪拌に使用するミキサーが2台体制になったので、作業がとてもスムーズに進めることができました。

【参加者の感想】

- ・今回の石鹸作りは牛脂が多く、今までの廃油石鹸とは違い、見た目も白いので出来上がりが楽しみです。
- ・とても楽しい作業でした。この石鹸を使うのが楽しみです。
- ・香りづけに使った香水の匂いが使うときに残っているのか…楽しみにしています。
- ・昨年作って固まらなかった酒粕の石鹸、また作ってみました。
- ・市販の石鹸も使われていることを知りました。



2月15日(日) 午前 参加者: 12名

活動内容:七味作りとハーブソルト作り(琵琶湖博物館 実習室2)

昨年実施をしてとても好評だった七味作りを今年も行いました。今回はメンバーさんが唐辛子や胡麻など、春から育てて下さり、とても貴重な材料を使わせて頂きました。七味作りは漢方薬からヒントを得て作られたものなので、この寒い時期に体を温めるのに、普段の食事に取り入れて行きたいです。それぞれオリジナルの七味を数種類作ってみました。

午後からは七味の材料で余ったものや、メンバーが育てたハーブを使ってハーブソルトを作りました。

塩は、フライパンで炒って、サラサラの焼き塩にしました。どんなお料理に使おうか、考えながら楽しくハーブソルトを作っていました。

【参加者の感想】

- ・今年もなんとなく七味っぽいものが出来上がり、唐辛子の風味が足りないことに気が付き、唐辛子を足しておいしくいただきました。ハーブソルトも肉料理に使おうかと思案中です。
- ・お鍋用・おむすび用・味噌汁用の七味を作りました。しいたけの粉末を入れた七味が楽しみです。
- ・1年ぶりの七味作り、楽しかったです。「二辛五香」の言葉通り調査してみようと思っていたものの、欲張っていろいろと入れてしまいました。自分だけの七味、食べるのが楽しみです。
- ・七味作り、奥深いです。4種類も作らせてもらいました。しいたけ入り、楽しみです。
- ・準備が大変だったと思います。ありがとうございました。家族にも好評でした。
- ・七味なのに十味ほど入れてしまいました。奥深い味と香り、「二辛五香」を昔の人は楽しいんでいたのでしょう。



3月8日(土) 午前 参加者: 8名

活動内容:総会(琵琶湖博物館 研究交流室)

来年度の計画を立てました。改めて緑のくすり箱の活動の趣旨を確認しました。

各活動の代表者を決め、総会に参加出来なかったメンバーは、後日担当の連絡、その代表者へ連絡することになりました。

【活動予定】

- ・4月29日(火) 10:00~12:00 藍の定植(生活実験工房)



(18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 29名】

グループ担当職員: 今田 舜介

【活動報告】

■1月18日(土)10~15時 参加者:8名 長浜市

1月の例会は長浜市でオサ掘りを行いました。天候や積雪の心配があったのですが、晴天に恵まれ穏やかな採集日和となりました。山道でオサ掘りやオオムラサキの越冬幼虫採集を開始。積雪も日陰に少し残る程度で採集には全く支障はありませんでした。気温もかなり上がったようでキタキチョウやウラギンシジミも飛び出したようです。オサムシも少ないながら4種類が見つかりました。他に、ゴミムシダマシ類やスズメバチ、カマドウマ、ハサミムシなども掘り出されました。



■2月22日(土)10~12時 参加者:10名 琵琶湖博物館 生活実験工房

2月例会は屋内での標本作り体験でした。この日の虫架けは、チョウとオサムシの標本作りです。チョウの方は標本が相当に古く、翅を広げることにみなさんかなり苦労されていました。オサムシの展脚は、準備した10種類の中から好きなのをいくつか選んで作成してもらいました。みなさん思い思いに標本作り楽しまれ、お昼ごろには終了することが出来ました。過去に採集して何年も経過している標本は、軟化後に展翅・展脚を行います。蝶・蛾はたくさん練習しないとうまいかないかもしれません。とにかく練習あるのみです。



■3月2日(日)10~12時 参加者:11名 琵琶湖博物館 生活実験工房

虫架け総会を行いました。代表より2024年度の虫架け活動の報告の後、2025年度の活動計画をみんなで話し合いました。2025年度の新体制も決めました。

また、「虫架け通信」76号、77号、78号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

来年度の活動計画が決まりました。来年度も1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。4月から観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■1月25日(土)10:00~15:30 参加者:(会員)7名 (博物館職員)林
内容:

屋外展示のPR策として取り組んでいる「木の実を使ったリース作成」を行った。経験豊富なYさん指導の下で葉や実の選択や配置でいろいろなアイデアを出し合いながら楽しく作業し完成したのは予定をとくに過ぎ15時を過ぎていた。今後説明書きの作成などをして展示する予定である。



■2月8日(土) 大雪のため中止

■2月22日(土)10:00~12:30 参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

内容:屋外展示のPR策として取り組んだ「木の実と葉っぱのリース」の展示場所、状態を確認した。また、屋外のクイズラリー「フォレストマスター 冬版」も完売したため追加設置してもらったとのことだった。

年度途中ではあるが、代表者の交代をした。ちょうど年度末の報告等を控えていたので、3月からの活動内容の確認、来年度の主な進め方を話し合った。代表者の負担軽減のため、このニュースレターもこれからは、交代で受け持つことにした。

【今後の予定】

■3月8日(土)10:00~12:30 春のフォレストマスター作成、来年度年間計画話し合い、他

■3月23日(日)10:00~12:30 屋外クズなどつる植物の除去、雨天時はフォレストマスターづくり

以上

【活動報告】

琵琶湖梁山泊の唯一の会員は現在、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」に出入りして、プランクトンや付着藻類の観察にいらしています。同会に集う同年代の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。

【活動予定】

引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生や、研究が進展すぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。はしかけ会員は、まずは上記のはしかけ代表アドレスにご連絡を。はしかけ会員でない人は、まずは4月下旬から行われるはしかけ登録講座(オンライン)ではしかけ登録を。集え梁山泊へ！



(21) サロン de 湖流

【活動報告】

■ 1月26日(日)13:00~14:30 新メンバーを迎えての打合せ

場所: 琵琶湖博物館会議室

参加者2名(はしかけ2名)

はしかけ登録講座の参加者に興味をお持ちの方があったので、コロナ禍以前の活動内容について説明し、どういうことに興味をお持ちなのかといったことをお伺いしました。

【活動予定】

■ 新しい方を迎えたことを踏まえて、改めてどのように活動を進めて行くかメーリングリスト等で協議しようとしているところです。



(22) 水と暮らし研究会

【活動報告】

■ 令和7年1月9日(木) 9:00-12:00 晴 参加者 6名

1 活動先: 東近江市妹町一帯

2 調査内容

妹(いもと)町は、旧愛東町の中南部に位置し、愛知川の河岸段丘の上側と下側の両方に広がっている。東隣の曾根・青山・小倉はいずれも段丘の下側、西隣の中戸・鯉江は上側にある。

今回は東近江市妹町を訪問し愛知川河岸段丘の実態、春日神社での手水の水質検査、光明寺訪問での現地調査を行い、集落内の生活用水・灌漑用水の歴史と現況をあわせて調査した。



□妹南交差点(上段を望む)



□光明寺法印



□河岸段丘の上部より下部



□春日神社



□丸石を積み上げた石垣



□河岸段丘上部の畑地

■ 令和7年2月 13 日(木) 9:00-12:00 雪交じりの曇天 参加者 6名

1 活動先: 東近江市上中野町一帯

2 調査内容

今回は東近江市上中野町についての現地調査を行った。

R307 号線のあいとうマーガレット交差点を県道 229 号線百済寺方面に進み、下中野町を超えた次の集落が上中野町である。集落入り口の県道下を加領川が横断して流れている。加領川に架かる橋の手前を右折した小道が八幡神社の森を超えて、「里」の小集落に続いている。訪問当日(2月 13 日)は前日の雪が、集落内道路は除雪されているものの、人が入り込んでいない所や田畑は、深い所で 10 cm 程度の残雪であった。東近江市街には雪はなかったが、山裾に近づくにつれて田畑の積雪が深くなるのを実感した。八幡神社の鳥居をくぐり、新雪を踏みながら着いた本殿は、掃除も行き届いていた。さらに小道を進んだ「里」(八幡神社の南側)の集落は今も数軒程度で、集落の裏は南東側の山裾方向から南西方向に整備された広大な水田(一部集落の隣接地は畑・果樹)が広がっている。善福寺の境内で、山門代わりの山号を示す石碑から参道が本堂前へと続いている。本堂への参道脇にある地藏堂の中には、石の地藏様が数体祭られていた。加領川も積雪の中で水路には水の流れはなく、枯れた茅の穂が風に揺れているだけであった。また、各戸には、井戸が現存しているのが印象的であった。伏流水が豊富であり、少し掘れば水が出てくるのであろう。八日市市街地から少ししか離れていない場所でありながら、この積雪量の違いには驚かされた。

生活用水は、伏流水が十分にあって、3~5m掘れば、水が出てくるので各家は井戸水を使っている。今も井戸を利用されている家が多い。農業用水は、加領川からの引水は使わず、自然湧水があるので野井戸や溜池を利用していた。野井戸や溜池は圃場整備で消え、田地に変わっている。



□八幡神社鳥居



□八幡神社本殿



□上中野冬全景



□善福寺本堂



□善福寺入口地藏堂



□加領川

執筆者 以上
小篠



(23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

* 2025 年2月28日(金) 9時30分～11時30分

天気:曇り 気温:9℃ 琵琶湖の水位:－40cm 参加者:4名

定点観測



今日の新海浜



ハマエンドウ



ハマゴウ

観察状況 新海浜の状況

- * 風は無く波は静か、曇っていたため対岸はほとんど見えない。雪を被った比良山系の山並みがかすかに眺望できる。

活動内容

- * 保護区東側ツルニチニチソウ刈取り地の切り株除去作業:竹(11 本)、木(3 本)
- * 保護区内および保護区東側の雑草(ツルニチニチソウ等)除去作業

海浜植物

ハマゴウ:ハマゴウは枯れたような状態になっている。

ハマエンドウ:ところどころに葉を残しており、春の訪れを待っている状況である

特記事項

- * 保護区の周り4、5カ所に滋賀県の「ハマゴウ・ハマエンドウを取らないで！」の看板が貼ってあった。
(参考)4月1日に「新海浜のハマゴウ・ハマエンドウ群落生育地保護区」は、これまでの保護区の範囲を変更して指定された。(湖岸側のハマゴウの生育箇所をすべて含む形での変更。)

作業風景



以上

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(5 月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 春の草花でしおりを作ろう！	屋外展示で春の草花を採取した後、ラミネーターでオリジナルのしおりを作ります。色や形、名前などについて植物博士に教えてもらいます。	2025 年 5 月 10 日	土	13 時 30 分 ～ 15 時 00 分	琵琶湖博物館 実習室2 屋外 展示	※先着 ※雨天決行
【田んぼ体験】 生活実験工房	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、田植え作業を体験して頂きます。	2025 年 5 月 11 日	日	10 時 30 分 ～ 12 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※長靴、着替え軍手等をご用意下さい。 ※暑さ対策をお願いします。 ※雨天中止 ※要事前申込
季節の植物でアロマ ウォーターを作ろう！	季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。	2025 年 5 月 13 日	火	10 時 30 分 ～12 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 5 名(先着) ※当日受付(受付時間 10:30～) ※直接、生活実験工房にご来場ください。
ちこあそ・5 月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2025 年 5 月 21 日	水	10 時 00 分 ～14 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
はしかけ登録講座 (オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを行います。	2025 年 4 月 27 日 ～5 月 11 日		左記期間のうち任意の時間(1 時間 30 分程度)	オンライン	※登録にはボランティア保険料 350 円が必要 ※要事前申込

4. 生活実験工房からのお知らせ

2 月 9 日に「わら細工」のイベントを実施しました。参加者の皆様が、楽しみながら、わら細工を作成されている姿が印象的でした。イベント参加後には、皆様それぞれの出来栄に満足されている様子を伺えてよかったです。



▲2/9 わら細イベント 体験の様子



▲2/9 わら細イベント 完成品

2025 年度の田んぼ体験イベントの開催日程が決まりましたので、ご案内申し上げます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。今年はずべてのイベントが順調に進行し、より素晴らしい体験となるよう努めて参ります。

今後のイベントは以下のとおりです。

【活動予定】

開催時間：10:30～12:00(受付 10:00～) 場所：生活実験工房
田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

5 月 11 日(日) 田植え

7 月 13 日(日) 昆虫採集

9 月 7 日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)

10 月 11 日(土) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

12 月 14 日(日) しめ縄づくり

2 月 8 日(日) わら細工

担当:環境学習・交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。